


| | |
|--|--|
| <h1 style="margin: 0;">指導資料</h1> <p style="margin: 0;">鹿児島県総合教育センター 令和4年4月発行</p> | <h2 style="margin: 0;">家庭科, 技術・家庭科 (家庭分野) 第52号</h2> |
| | <p style="margin: 0;">対象校種 高等学校 特別支援学校</p>  |

「学び」を「実社会」につなげる家庭科の取組 ～キャリア教育との関連を図りながら～

産業・経済の構造的変化や雇用の多様化等が進む中で、様々な課題に対応し自立した社会人・職業人の育成を図る教育の推進が強く求められ、学習指導要領ではキャリア教育の充実を図ることが示された。そこで本稿では、高等学校家庭科におけるキャリア教育の事例を紹介するとともに、推進に当たっての留意事項を述べる。

1 家庭科とキャリア教育との関連

将来の変化を予測することが困難な時代を生き抜いていくために、児童生徒は、自らの力で生き方を選択していくための資質・能力が必要となる。キャリアとは、「働き方」と関連付けられた「生き方」であり、児童生徒を、自らの進路(生活と労働)を切り拓いていく主体に育てることがキャリア教育の目標と言える。この実現のため、キャリア教育を通じて四つの基礎的・汎用的能力の育成が求められている(図1)。

我が国におけるキャリア教育は様々な変遷を経て、高等学校学習指導要領(令和4年度から年次実施)の総則に右上のように定められ、教育課程全体で取り組むことが求められている。

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ、各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。
(第1章総則第5款の1(3)より引用 一部抜粋)

(1) 共通教科「家庭」について

目標に「人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え」とあるように、家庭科は人の一生について生涯発達の視点から学習する(図2)。家庭科で育成を目指す資質・能力と、キャリア教育で付けたい力は密接なつながりがあることを意識し、教科の教育全体を通して継続的に実践することが重要である。

- ① 人間関係形成・社会形成能力
 - 生涯発達の視点で人の一生と青年期の自立、家族・家庭について考える。
 - 子どもの発達、親の役割と保育、地域社会の果たす役割を理解する。
 - 高齢期の生活を理解し、高齢者の自立生活を支える家族や社会の役割を考える。
 - 共に支え合って生きていることを認識し、家族や地域及び社会の一員として主体的に行動することの意義について考える。
- ② 自己理解・自己管理能力
 - 消費生活の現状と消費者問題や消費者の権利と責任を理解し、生涯を見通した経済計画について考える。
 - ライフステージごとの衣食住の生活を科学的に理解し、持続可能な社会を目指して安全と環境に配慮して、主体的に衣食住を営むことができる。
- ③ 課題対応能力
 - ホームプロジェクトと学校家庭クラブにおいて、生活上の課題を設定し、解決方法を考え、実践することを通して、生活を科学的に探究する方法や問題解決の能力を身に付ける。
- ④ キャリアプランニング能力
 - 持続可能な社会を目指したライフスタイルを確立して主体的に行動できるようにする。
 - 生活設計をたて、生涯を見通した主体的な生活ができるようにする。

図1 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する家庭科の指導内容の例
(文部科学省『高等学校キャリア教育の手引』第3章第4節各教科等における取組より引用)

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉
 - (1) 生涯の生活設計
 - (2) 青年期の自立と家族・家庭
 - (3) 子供の生活と保育
 - (4) 高齢期の生活と福祉
 - (5) 共生社会と福祉
- B 衣食住の生活の自立と設計
 - (1) 食生活と健康
 - (2) 衣生活と健康
 - (3) 住生活と住環境
- C 持続可能な消費生活・環境
 - (1) 生活における経済の計画
 - (2) 消費行動と意思決定
 - (3) 持続可能なライフスタイルと環境
- D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

図2 共通教科「家庭」科目「家庭基礎」の指導事項

(2) 産業教育と専門教科「家庭」について

産業教育とは、「産業に従事するために必要な知識、技能及び態度を習得させる目的をもって行う教育」（産業教育振興法より抜粋）のことである。高等学校の職業教育を主とする専門学科においては、各教科の指導を通して、関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み、社会を支える人材を輩出してきた。職業に関する各教科においては、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、多様な課題に対応できる課題対応能力を育成することが重要であり、地域や産業界との連携の下、実践的な学習活動をより一層充実させていくことが求められている。

専門教科「家庭」においては、右上のように少子高齢化、食育の推進や専門性の高い調理師養成、価値観やライフスタイルの多様化、複雑化する消費生活等への対応などを踏まえ、生活産業を通して地域や社会の生活の質の向上を目指す。

専門教科「家庭」で育成を目指す資質・能力

- 生活産業について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的理解、関連する技術の習得
- 生活産業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力
- 職業人として必要な豊かな人間性、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活産業に関わる地域の産業や生活の質の向上を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度（文部科学省『産業教育ワーキンググループにおける審議のとりまとめ』（H28.8.26）より引用 太字は筆者による）

また、将来のスペシャリストに必要な資質や能力を育成することを重視しており、キャリア教育の基礎的・汎用的能力を育成することと密接に関連している。

指導に当たっては、社会や産業における新たな課題の解決に向けて、多くの人と協力して挑戦し粘り強く学び続けることや、広い視野でよりよい社会の構築に取り組む態度を育成することが重要である。次項で家庭科におけるキャリア教育の取組を紹介する。

2 家庭科におけるキャリア教育の実践事例

(1) 普通科における取組

【事例1】「詐欺被害防止のための消費者教育」県立川辺高等学校（専門科目「消費生活」での取組）

【取組の概要】

- 普通科3年生「消費生活」の授業で実施
- 鹿児島大学教育学部の准教授とゼミ生を講師とした授業。南九州地区防犯協会事務局、南九州市役所と連携
→ 指導者が、今回の講師による指導者向けの講義を受講したことがきっかけで、講師として招聘

【具体的な活動】

- 電話による詐欺被害防止のための知識と技能を身に付けさせる内容
→ 社会人として独り立ちしたり、一人暮らしを始めたりする生徒も多いことから計画
- 様々な消費者被害の実例をカルタにして、生徒はクイズ形式で解答
→ 鹿大准教授と学生が作成した、オリジナル教材を使用

【成果】

- 授業で学んだ知識や技能の汎用性に気付き、実生活に生かそうとする姿勢を養い、学びの価値付けができた。
- 家庭経済への関心を高め、生涯を見通した主体的な消費生活を営む態度を養うことができた。
- 関係機関と連携したり、地域の人的資源を活用したりすることにより学校の教育活動を理解してもらう機会となった。

【課題】

- 成年年齢の引き下げに伴う、消費者の責任についての指導の充実が必要である。



写真1 消費者被害についての講義



写真2 カルタ取りの様子



写真3 講義後の振り返り・意見交換

(2) 専門学科における取組

【事例2】「奄美高校レストラン」 県立奄美高等学校（全校体制での取組）

【取組の概要】

- ・ 平成29年度から「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」, 「奄美市魅力ある学校づくり支援事業」の一環として, 令和2年度から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の一環として実施
- ・ 地域の活性化を図り, 将来の地域創世のリーダーとして活躍する人材の育成を目指す。
- ・ 様々な分野のプロフェッショナルと協働することで, 高度な技術の習得や職業観の育成を図る。

【具体的な活動】（家政科に係る）

- ・ 各学科の特色を生かした「おもてなし」を通して, 奄美の魅力を国内外へ発信する。
 - 食物分野：レストランメニュー開発, 調理
 - 被服分野：エプロンやネクタイの製作（大島紬）, テーブルクロスやナプキンの製作（泥染め・型染め）

【成果】

- ・ 地域の連携先とコンソーシアム体制を構築し, 協働することで, 職業への理解が深まった。
- ・ 国内外の観光客をターゲットにすることで, グローバルな視点をもつことにつながった。
- ・ 学科間の連携を図った, 体系的・発展的な教育課程の編成により, 教科横断的なカリキュラム・マネジメントの充実を図ることができ, 高い教育効果を得ることができた。
- ・ 食文化や伝統工芸など奄美の魅力を認識するきっかけとなり, 地域創世のリーダーとして活躍する人材の育成に資することができた。
- ・ 地域からの高い評価を得て, 達成感を味わうとともに, 自己肯定感を高めることができた。

【課題】

- ・ 地域に根差した活動とするために, 持続可能な取組となるような仕組みづくりが必要である。



写真4 デザートの調理



写真5 提供された料理と
テーブルナプキン



写真6 大島紬のエプロン製作

【事例3】「国分中央フェスティバル」 霧島市立国分中央高等学校（生活文化科3年生の取組）

【取組の概要】

- ・ 平成29年度からの取組で, 地元のホテルから学習成果発表の機会提供の申し出がありスタートした。
- ・ 3年間の学習の集大成として, 生活文化科の3年生全員が参加している。
- ・ 当初は教師主導で行っていたが, 生徒自身が内容の検討や運営等に関わる場面が増えている。
 - 企業のメリット：地元企業について広く知ってもらい, 利用促進を図る。地域に貢献できる。
 - 学校のメリット：学習活動の成果を広く地域に周知し, 生徒の自主性を促す。

【具体的な活動】

- ・ 専門教科「課題研究」の成果発表：ドレスショー, 着付けショー, 立礼点前, 展示（華道, 調理例, 幼児服）, 等
- ・ 部活動の成果披露（ダンス部, 吹奏楽部, 放送部）

【成果】

- ・ 生徒は, 学びによる自身の成長を実感し, 自己肯定感を高めることができた。
- ・ 企業の担当者, 教師, 生徒同士など協働して取り組む中で, 課題解決能力を高めることができた。
 - コロナ禍での実施：動画サイトでライブ配信を行うなどの工夫。
- ・ 恒例行事として保護者・地域に認知され, 学校の教育活動を知ってもらう機会となった。
- ・ 3年生全員で取り組む姿勢を見て, 下級生にとっては, 高校での学びの見通しをもつことができた。

【課題】

- ・ 生徒が更に創造的・意欲的に参加するために, 企画・運営を生徒主体で行う体制づくりが必要である。



写真7 生徒運営係とホテル
担当者との打合せ



写真8 立礼点前の様子



写真9 着付けショー



写真10 ドレスショー

3 キャリア教育推進に当たっての留意事項

(1) カリキュラム・マネジメントの視点をもつこと

キャリア教育の充実を図るためには、各学校で示された「育成したい生徒像」等に照らして、3年間を通じて体系的に行うことが重要である。その際、他教科や他学科との関連をもたせ、教科等横断的に教育課程を編成することにより、深い学びにつながる。また、関係機関やプロの人材を活用することで、働くことへの関心や理解を深めることができる。実践に当たっては、PDCAサイクルに沿って、レポートを作成させるなど、生徒自身に取組前後の変容に気付かせ、学びの価値付けをさせるとともに、指導者も取組の評価・改善を行うことが大切である。

(2) 校種間の接続を図ること

高等学校においてキャリア教育を進めていくためには、小・中学校段階のキャリア教育がどのような理念の下で、どのような実践がなされてきたのかを踏まえておく必要がある。それぞれの発達の段階に応じたキャリア教育を積み上げていくことで児童生徒の社会的・職業的自立を促すことにつながる(図3)。

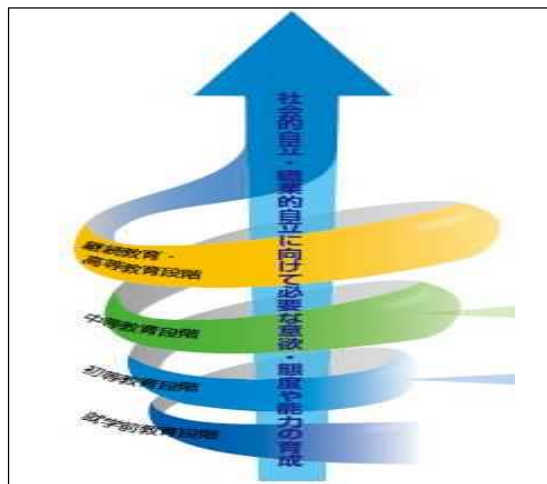


図3 キャリア教育の全体像(キャリア教育の手引より引用)

(3) 取組を継続すること

紹介した事例は現在も継続して実施されている。取組を継続し恒例化することにより、教科の目標の実現やキャリア教育の充実はもちろん、右上のような様々な効果が期待できる。

取組の継続により期待できる効果

- ・ 「社会に開かれた教育課程」の実現
 - コンソーシアム等を構築することにより、「地域の魅力ある学校」としての価値を高める。
 - 地域の現状と課題に向き合うことにより、地域貢献に意欲的な人材の育成につながる。
- ・ 生徒が「学びの見通し」をもって授業に臨むことができる。
 - 上級生が既習の知識や技能を活用した取組を行う姿を身近に見ることで、下級生は3年間の見通しをもって学ぶことができる。
- ・ 自己肯定感の向上
 - 学校のブログなどを活用し取組を効果的に広報することで、生徒の自己肯定感を高めることができる。

(4) 多様な進路に対応できる体制づくり

キャリア教育は、進路指導・職業教育を含む広義の概念であり、これらの目的や内容に本質的な差異はないと言える。近年、専門高校で学んだ生徒の進路が多様であることから、大学等との接続についても重要な課題となっている。「家庭」に関する学科においては、6割近い生徒が進学しており、これは専門学科の中でも高い割合である(表)。本県においても専門学科推薦枠を活用し、例年、国公立大学への進学を果たしている。生徒の多様な進路目標に対応できる教育課程の編成や、系統立てた指導体制づくりが重要である。

表 高等学校卒業者の学科別進路状況(令和2年3月卒)

| | 在籍数(人) | 進学(%) | | | 就職(%) | その他(%) |
|----------------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| | | 進学計 | 大学・短大等 | 専修学校等 | | |
| 総計 | 1,037,284 | 77.6 | 55.8 | 21.8 | 17.5 | 5.0 |
| 普通科 計 | 760,444 | 86.3 | 65.3 | 21.0 | 8.2 | 5.5 |
| ※専門高校 計 | 188,366 | 43.5 | 20.8 | 22.7 | 54.1 | 2.5 |
| 総合学科・その他 計 | 88,474 | 77.4 | 52.5 | 24.9 | 16.9 | 5.7 |
| 県内県「家庭」に関する学科 | 12,246 | 58.8 | 26.0 | 32.8 | 37.5 | 3.7 |

文部科学省「学校基本統計(学校基本調査報告書)」を基に筆者作成

4 おわりに

家庭科において、キャリア教育の視点に立った取組を行うことにより、「学び」が「実社会」につながる機会となり、多くの教育的効果が期待できる。家庭科の学びが、未知の状況に対応できる力を育成し、生徒がよりよい人生を送るための一助となることを期待したい。

- 引用・参考文献 -

- 鹿児島県総合教育センター指導資料「キャリア教育」第3号(平成30年)、第4号(平成31年)、第5号(令和2年)
- 産業教育ワーキンググループにおける審議の取りまとめ(平成28年)
- 文部科学省『キャリア教育の手引』(平成23年)
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説家庭編』(平成30年)(教職研修課 税所 篤代)